

実施日:5月19日

1. 教育活動を通じて、「自ら考え、判断し、行動することのできる若者」を育てる。

授業・学校生活における主体的・能動的な取り組みの支援制度は充実してきており、その成果も表れているので、引き続きこの方向で進めるとともに、学校生活や学校行事は第二段階として生徒の自治領域を少しずつ拡充していくことが望ましい。また、「一步を踏み出せない生徒の背中を押して欲しい」といったご意見が保護者から寄せられていたが、強制するのではなく、「その気」にさせる仕掛けがいくつもあるほうが良い。校内でも全員が発表する機会を設けているが、さらに外部コンテストへの参加やボランティア、見学訪問等、学校外の空気に触れる機会を増やすのも良い。

2. 多様な進路目標の実現に向けて努力する。

一般選抜以外の入試制度は今後も拡大する方向で、制度も多様化している。教員の入試情報共有は必須なので、生徒への姿勢より教員間の共有体制が目標であってもいいくらい。獨協大学からの協力は幾ら多くても悪いことはない。獨協医科大学に内部推薦枠で進学した卒業生をはじめ、合格体験を聴く会の実施は良い企画だと思う。他校で聞いた話でも、部活動や行事で一緒だった先輩の体験談は学習意欲に繋がりやすい。

3. 安心安全な環境と登下校マナーについて。

地元や近隣エリアからの入学生が増えているのは学校の評価も良くなっていると考えて良いだろう。中学と同様だが、一案としてせんげん台駅職員やバス会社に経年で生徒のマナーに関して意見をいただくなどの方法はどうだろうか。「外部からこう見られている」という生の声が生徒に聞かせられる。他校では地元自治会長が外部委員という例もある。

4. 教育活動の情報発信。

部活動体験や授業体験は好評だったそうなので、継続を期待したい。特に部活動は公立中学によっては減少もしくは無くなることも考えられるため、良いアピールになるだろう。学校からの情報発信においては「継続すること」が極めて重要であるが、自校HPやSNSは個人技に陥りやすいので体制の確認が必要であり、また同窓会などとの外部組織とも経年を含めて定期的な発信体制も必要。